

# 製品インストールマニュアル

- PostgreSQL 対応版 -

NI コラボ

顧客創造日報 for WEB (Type-R)

顧客深耕日報 for WEB (案件創造統合、Type-R)

顧客深耕日報 for Accounting Office

可視化日報

顧客の声

見積共有管理

経営 CompasScope

顧客創造アプローチ

可視化マップスコアラー

Sales Force Assistant

## はじめに

本ドキュメントは、株式会社 NI コンサルティング開発の各 Web 製品群のインストール、及び NI Application Server (Web 製品動作に必要な実行環境)のインストールを支援することを目的としています。

インストールの事前準備から、インストール後の動作確認までの一連の作業の流れと注意点を説明しておりますので、インストール後のトラブルを避ける為にも必ず目を通してください。

# 目次

## はじめに

1. システム要件	1	9-2. ご利用時の注意事項	19
1-1. NI APPLICATION SERVER のインストールに必要な要件	1	9-3. インストールプログラムの実行	19
2. LINUXOS インストール時の注意点	1	9-4. NI SSH SERVER の起動方法	20
2-1. パーティション構成	1	10. インストールファイルの削除	21
2-2. インストールモジュールについて	2	10-1. アンインストールプログラムの実行	21
2-3. 確認方法(共通)	2	10-2. NI APPLICATION SERVER のアンインストール方法	22
3. NI APPLICATION SERVER (実行環境)について	4	10-3. NI 製品のアンインストール方法	22
3-1. 概要	4	10-4. NI 製品のバックアップ設定を削除する方法	23
3-2. インストールディレクトリ	4	10-5. NI SSH SERVER のアンインストール方法	23
3-3. NICONSQL ユーザー	4	11. NI 製品の各ログイン方法	24
3-4. 実行プロセス	5	11-1. NI コラボ	24
3-5. 設定ファイル	5	11-2. 顧客創造日報 および 顧客創造日報 TYPE-R	24
4. インストール準備	6	11-3. 顧客深耕日報 関連	24
4-1. サーバーへのログイン	6	11-4. 可視化日報	24
4-2. CD-ROM のマウント	6	11-5. 顧客創造アプローチ	24
4-3. 文字化けした場合の変更方法	7	11-6. 見積共有管理	24
5. セットアッププログラムの実行	8	12. NI 製品のリストア(復旧)方法	25
6. NI APPLICATION SERVER のインストール方法	9	12-1. NI 製品の新規インストール	25
6-1. 必要なプログラム	9	12-2. ディレクトリデータのリストア	25
6-2. インストールプログラムの実行	9	12-3. データベースデータのリストア	25
6-3. NI APPLICATION SERVER の起動方法	11	13. バックアップデータの外部への退避方法	26
7. NI 製品のインストール方法	12	14. サーバーの電源管理について	27
7-1. 実行環境の確認	12	15. サーバーパラメータ調整方法	28
7-2. インストールの実行	12	15-1. 事前準備	28
8. NI 製品のバックアップ設定方法	17	15-2. PostgreSQL 起動パラメータの設定変更	28
8-1. バックアップの内容	17	15-3. Apache 起動パラメータの設定変更	29
8-2. バックアップ設定時の注意事項	17	15-4. サーバーの再起動	29
8-3. セットアッププログラムの実行	17		
8-4. バックアップの即時実行	18		
9. NI SSH SERVER のインストール方法	19		
9-1. NI SSH SERVER について	19		

## 1. システム要件

### 1-1. NI Application Server (実行環境)のインストールに必要な要件

ハードウェア	CPU	Xeon 2.53GHz/4 コア以上 (x86 系プロセッサ搭載機)
	メモリ	4GB 以上
	ハードディスク	最低 100GB 以上 ※利用状況により変動します。
サーバーOS	Red Hat Enterprise Linux 6 Red Hat Enterprise Linux AP/Server 5 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3/4 TurboLinux 10 Server ※最新の対応状況は別途ご確認ください。	
必要ソフトウェア	glibc 2.1 以上、make、mt-st (TurboLinux10 Server は perl 5.8.5 以上)	

## 2. LinuxOS インストール時の注意点

ここでは弊社製品をインストールするために注意の必要なディストリビューションのインストール方法、及び必要なソフトウェアの確認方法を説明いたします。

詳しいOSのインストール方法は、ユーザー様のみが接続可能なユーザー様向けホームページに公開しておりますので、インストール前に必ず目を通してください。

### 2-1. パーティション構成

弊社製品付属のミドルウェア、及び弊社製品は /usr/local/ni 以下にインストールされるため、/usr 以下のパーティション（領域）をより多く使えるように設定する必要があります。また、バックアップデータ格納領域として /var/tmp/ni-backup 以下、一時的な格納領域として /tmp 以下も使用するため、以下のようなパーティション設計を推奨しております。

以下は、Red Hat Enterprise Linux 6 インストール用の推奨パーティションになります。

マウントポイント	容量	ファイルシステム
/boot	250MB (※1)	ext4
	2GB(物理メモリサイズ 4GB まで) 4GB(物理メモリサイズ 4GB から 16GB まで)	swap
/ (ルート)	可能な最大容量まで拡大	ext4

※1 メーカーの指定等があった場合、容量の指定を変更する場合があります。

以下は、それ以外のLinuxインストール用の推奨パーティションになります。

マウントポイント	容量	ファイルシステム
/boot	100MB (※1)	ext3
	搭載している物理メモリサイズ+2GB	swap
/ (ルート)	可能な最大容量まで拡大	ext3

※1 メーカーの指定等があった場合、容量の指定を変更する場合があります。

## 2-2. インストールモジュールについて

「NI Application Server」をインストールするためには、「glibc」「make」と言ったライブラリなどのモジュール、DAT へバックアップデータを書き込む場合は「mt-st」などのソフトウェアが必要となります。

※通常 OS をインストールした場合には、上記モジュールはインストールされております。

※TurboLinux10 Server は perl 5.8.5 以上が必要です。

## 2-3. 確認方法(共通)

- ① インストールされているかどうかは以下のコマンドで確認してください。

```
rpm -q glibc [Enter]
rpm -q make [Enter]
rpm -q mt-st [Enter]
rpm -q perl [Enter]
```

- ② **表-1** に上げたパッケージ名(※1)がそれぞれ表示されるとインストールは完了しています。もし表示されないパッケージ名がある場合は、各ディストリビューション(OS)に付属しているCD-ROM からインストールを行なってください。

※1 パッケージのアップデートを行なっている場合、バージョン番号が異なります。

表-1. 各ディストリビューションの必要パッケージ名

ディストリビューション	パッケージ名(※1)
Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3	glibc-2.3 以上 make-3.79 以上 mt-st-0.7-11 以上
Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4	glibc-2.3 以上 make-3.80 以上 mt-st-0.8-1 以上
Red Hat Enterprise Linux AP/Server 5	glibc-2.5 以上 make-3.81 以上 mt-st-0.9b-2 以上
Red Hat Enterprise Linux 6	glibc-2.5 以上(※2) make-3.81 以上 mt-st-0.9b-2 以上
Turbo Linux 10 Server	glibc-2.3 以上 make-3.80 以上 mt-st-0.6-7 以上 perl-5.8.5-8 以上(※3)

※ 1 標準の CD-ROM に収録されているパッケージを基準に掲載しています。最新バージョンについては OS ベンダより提供されているものを利用してください。

※ 2 Red Hat Enterprise Linux 6.2 の 64bit 環境で提供されている glibc モジュールについては OS ベンダより提供されている新しいバージョンに更新してください。

glibc-2.12-1.47.el6.x86\_64 ⇒ glibc-2.12-1.47.el6\_2.12.x86\_64 (2012年6月1日現在)

※ 3 TurboLinux10 の Perl モジュールは、OS ベンダより提供されている新しいバージョンに更新してください。

### 3. NI Application Server (実行環境)について

#### 3-1. 概要

NI Application Server は、弊社 Web 製品動作に必要な環境、及び設定を一括で構築するものであり、その中身は広くオープンソースとして公開されている「Apache」、「PHP」、「PostgreSQL」、「OpenSSL」をベースとしております。また、オプションのセキュアなリモートアクセス環境を構築する NI SSH Server は、同じくオープンソースの「OpenSSH」、「zlib」をベースとしております。その為、同 Linux サーバー上で、別の Apache、PostgreSQL 等や同じポート (80, 443, 5432) を使用するソフトウェアを同時に立ち上げることはできません。インストールの前にご確認ください。

#### 3-2. インストールディレクトリ

基本的なファイルはすべて、`/usr/local/ni` 以下にインストールされます。

パッケージ名	インストール先
Apache	<code>/usr/local/ni/apache</code>
PHP	<code>/usr/local/ni/php5</code>
PostgreSQL	<code>/usr/local/ni/pgsql</code>
OpenSSL	<code>/usr/local/ni/openssl</code>
OpenSSH	<code>/usr/local/ni/openssh</code>
zlib	<code>/usr/local/ni/zlib</code>
起動スクリプト(※1)	<code>/etc/rc.d/init.d/niserver</code>
NISSH 起動スクリプト(※1)	<code>/etc/rc.d/init.d/nisshd</code>

※1 起動スクリプト類は、インストール時に `chkconfig` コマンドを使い自動起動の設定を行いません。

#### 3-3. niconsul ユーザー

NI Application Server をインストールすると、Linux 上に `niconsul` グループと、`niconsul` ユーザーが作成されます。この `niconsul` ユーザーは、Apache の実行ユーザー及び、PostgreSQL の管理者ユーザーとなりますので、絶対削除しないでください。

インストール後は、必ず `passwd` コマンドを使い `niconsul` ユーザーのパスワードを変更してください。

### 3-4. 実行プロセス

NI Application Server を起動させた場合のプロセス名はそれぞれ以下のようになります。

- NI HTTP Server (Apache + PHP + mod\_ssl) : httpd
- NI PostgreSQL Server (PostgreSQL) : postmaster
- NI SSH (OpenSSH) : nisshd

### 3-5. 設定ファイル

各ソフトウェアの設定ファイルの場所は以下の場所に置かれます。

設定変更後の動作不良に関しては弊社では責任を負いかねます。ご注意ください。

NI Application Server 上の設定ファイルパス
/usr/local/ni/apache/conf/httpd.conf
/usr/local/ni/php5/lib/php.ini
/usr/local/ni/pgsql/data/postgresql.conf
/usr/local/ni/pgsql/data/pg_hba.conf
/usr/local/ni/openssh/etc/sshd_config



## 4. インストール準備

### 4-1. サーバーへのログイン

- ① root と入力して Enter を押してください。
- ② サーバー管理者(root)のパスワードを入力して Enter を押してください。(パスワードは入力しても表示されません)
- ③ [root@xxxxxx root]# \_ となればログイン完了です。

```
Red Hat Linux release 7.2 (Enigma)
Kernel 2.4.7-10 on an i686

REDHAT72 login: root
Password:
Last login: Fri Jun 13 22:18:34 on tty1
You have new mail.
[root@REDHAT72 root]#
```

ログイン完了

### 4-2. CD-ROM のマウント

- ① 製品が収録された CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してください。
- ② mkdir -p /mnt/cdrom と入力して Enter を押してください。
- ③ 自動で media にマウントされた場合、  
umount /media/\*\*\*\*\* と入力して Enter を押してください。(\*\*\*は CD-ROM のタイトルです)  
※RedHat6 などでは自動で media にマウントされるためアンマウントしてください。  
※「マウントされていません」と表示されてもそのまま④へ進んでください。
- ④ umount /dev/cdrom /mnt/cdrom と入力して Enter を押してください。  
※「マウントされていません」と表示されてもそのまま⑤へ進んでください。
- ⑤ mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /mnt/cdrom と入力して Enter を押してください。  
※「mount: ブロックデバイス/dev/cdrom～」のようなメッセージが表示されても正常です。
- ⑥ [root@xxxxxx root]# \_ に戻れば CD-ROM のマウントは完了です。

### 4-3. 文字化けした場合の変更方法

※「Tera Term」などのリモートコンソールで接続している場合など、日本語が正しく表示される状態であれば、この作業は必要ありません。

#### ・Red Hat 系の場合

kon と入力して Enter を押してください。

#### ・Turbo Linux 系の場合

miniuni と入力して Enter を押してください。

以下のように画面が切り替わります。

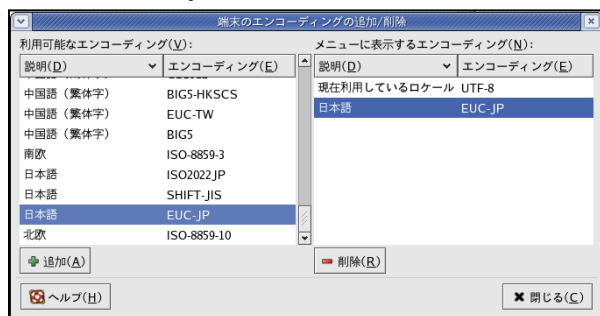
```
KON2 Kanji On Console ver.0.3.9 (2000/04/09) using VT number 1
Copyright (C) 1993-2000 Takashi MANABE
1993, 1994 MAEDA Atusi
[root@REDHAT72 root]#
```

※画面は「kon」を起動した場合

#### ・Red Hat 系の GNOME 端末、ターミナルで文字化けする場合

※お使いのディストリビュート(OS)やバージョンの違いによりターミナルの名称が異なる場合がございます。

- ① [アプリケーション]-[システム設定]-[GNOME 端末]で GNOME 端末を開いてください。
- ② ツールバーの [端末(T)]-[文字コードの設定(C)]-[追加と削除(A)]を選択し [端末のエンコーディングの追加/削除]画面を開いてください。
- ③ [利用可能なエンコーディング]の中から「日本語 EUC-JP」を選択し「追加」ボタンを押してください。[メニューに表示するエンコーディング]へ移動させた後「閉じる」ボタンを押してください。



- ④ ツールバーの [端末(T)]-[文字コードの設定(C)]の「日本語(EUC-JP)」を選択して●印を移動させてください。



以上で文字化けが解消されますが、その後の操作で文字化けする場合は適時「日本語(EUC-JP)」と「現在利用しているロケール(UTF-8)」を切り替えてください。

## 5. セットアッププログラムの実行

- ① /mnt/cdrom/nisetup. sh と入力して Enter を押してください。
- ② セットアップを開始する場合は、そのまま Enter を押してください。  
※この画面が文字化けしている場合は、4-3 節を参照してください。  
N: セットアップを終了します。

```
株式会社NIコンサルティング (http://www.ni-consul.co.jp/)
```

```
セットアップを開始します。  
よろしいですか? ([Y]/N) : _
```

- ③ セットアップを開始する番号を入力して Enter を押してください。  
Q: セットアップを終了します。

```
////////////////////////////////// セットアップメニュー ////////////////////////////////////  
  
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )  
2. NI 製品インストール ( NIコラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )  
3. NI 製品バックアップ設定  
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )  
  
0. インストールファイルの削除  
  
セットアップを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。  
番号( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 : _
```

それぞれのセットアップ方法は下記のページを参照してください。

- 1 ... NI Application Server のインストールを行なう場合 → P.9 へ
- 2 ... NI 製品のインストールを行なう場合 → P.12 へ
- 3 ... NI 製品のバックアップ設定を行なう場合 → P.17 へ
- 4 ... NI SSH Server のインストールを行なう場合 → P.19 へ
- 0 ... インストールファイルの削除を行なう場合 → P.20 へ

※このセットアッププログラムを利用してインストールしたものが対象です。

## 6. NI Application Server のインストール方法

### 6-1. 必要なプログラム

NI Application Server をインストールするためには、以下のモジュール・プログラムが必要となります。⇒P.2を参照してください。

glibc 2.1 以上、make、mt-st、perl

### 6-2. インストールプログラムの実行

① 以下のセットアップメニューで、1を入力してEnterを押してください。

```
////////////////////////////////// セットアップメニュー ////////////////////////////////////
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )
2. NI 製品 インストール ( NIコラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )
3. NI 製品 バックアップ設定
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )

0. インストールファイルの削除

セットアップを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。
番号 ( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 : _
```

② インストールを開始する場合は、Enterを押してください。

※インストールには約20から40分かかります。(マシンスペックにより変動します)

M: メニューに戻ります。Q: インストールを中止します。

```
////////////////////////////////// インストール確認 ////////////////////////////////////
NI Application Server のインストールを開始します。

以下のモジュールが /usr/local/ni にインストールされます。
・ NI HTTP Server ( Apache + mod_ssl + OpenSSL )
・ NI PGSQL Server ( PostgreSQL )
・ NI PHP ( PHP ) / NI LIB ( 共通ライブラリ )

※NI HTTP Server は 80,443、NI PGSQL Server は 5432 ポートを使用するため、
これらのポートを使用するアプリケーションが存在する場合、
インストールを行なうことが出来ません。インストール前に確認して下さい。

インストールを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。
Enter: インストール / M: メニューに戻る / Q: インストールの中止 :
```

- ③ 以下のように表示されると NI Application Server のインストールは完了です。そのまま Enter を押してセットアップメニューに戻ってください。

```
必要ライブラリのチェック中です...
インストール環境の確認が終了しました。
NI Application Server (実行環境) をセットアップ中です...
+ ni-libs : ##### [ OK ]
+ ni-postgresql : ##### [ OK ]
+ ni-openssl : ##### [ OK ]
+ ni-httpd : ##### [ OK ]
+ ni-php : ##### [ OK ]
-----+
| セットアップが完了しました。 |
| The starting method : /etc/init.d/niserver start |
-----+
安全な SSL 通信を行うために、以下に表示される拇印を控えておいてください。
インターネットエクスプローラーに証明書をインストールする際の確認事項になります。
※SHA1 Fingerprint= 以降の値が拇印となります。
SHA1 Fingerprint= xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx
```

インストールが正常に完了しますと、フィンガープリント（拇印）が表示されます。SSL 通信を利用して弊社製品にアクセスしていただく場合、クライアントパソコンにサーバー証明書のインストールが必要になります。フィンガープリント（拇印）は弊社が提供するサイトであることを証明する情報になりますので、必ず情報を控えていただくようお願いいたします。

なお、サーバーの物理メモリ容量が 8GB 以上の場合は、サーバーパラメータを調整することにより、良好なレスポンスが得られるように設定することが可能です。『15. サーバーパラメータ調整方法』を参照し、サーバーパラメータを調整頂くことを推奨します。

- ④ NI Application Server をインストールすると、Linux 上に niconsul グループと、niconsul ユーザーが作成されます。この niconsul ユーザーは、Apache の実行ユーザー及び、PostgreSQL の管理者ユーザーとなりますので、絶対削除しないでください。

セキュリティ上、必ず以下の passwd コマンドを使い niconsul ユーザーのパスワードを変更してください。

```
[root@REDHAT73 tmp]# passwd niconsul
Changing password for user niconsul.
New password:
Retype new password:
passwd: all authentication tokens updated successfully.
[root@REDHAT73 tmp]# _
```

※パスワードを入力する際、入力した文字は表示されません。

⑤ SSL 通信を利用して弊社製品にアクセスしていただく場合、セキュリティを強化するために SSL3.0 および SSL2.0 での通信を拒否する設定を行ってください。

**vi /usr/local/ni/apache/conf/extra/httpd-ssl.conf** と入力し **Enter** を押してください。

下図の太文字で記述されている内容をファイルの一番下に追加し、保存します。

```
</VirtualHost>
```

```
SSLProtocol All -SSLv2 -SSLv3
```

保存後に以下のコマンドを入力し WEB サーバーを再起動してください。

**/etc/init.d/niserver httpstart**

### 6-3. NI Application Server の起動方法

以下の方法で NI Application Server を起動することができます。

※NI Application Server インストール後、サーバー起動時自動的に起動します。

```
[root@REDHAT73 root]# /etc/rc.d/init.d/niserver start
Starting ni-httpd service: [ OK ]
Starting ni-postgresql service: [ OK ]
[root@REDHAT73 root]# _
```

## 7. NI 製品のインストール方法

### 7-1. 実行環境の確認

NI 製品をインストールするためには「NI Application Server」が稼動中である必要があります。

### 7-2. インストールの実行

① 以下のセットアップメニューで、2を入力してEnterを押してください。

```
//////////////////////////////////// セットアップメニュー //////////////////////////////////////
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )
2. NI 製品インストール ( NIコラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )
3. NI 製品バックアップ設定
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )

0. インストールファイルの削除

セットアップを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。
番号( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 : _
```

② セットアップ対象とサーバーが、: 選択中、: 未選択として表示されます。デフォルトでは両方とも選択中になっておりますので、通常はそのまま Enter を押して次へ進んでください。

※WEB サーバーとデータベースサーバーを分割して運用されている場合は、アップデート対象となる項目のみを選択中にして Enter を押して次へ進んでください。

```
//////////////////////////////////// 実行環境の確認 //////////////////////////////////////
現在作業中のサーバーは以下のいずれの用途で運用されていますか？
[●] 0. WEB サーバー
[●] 1. DB サーバー
説明 [●] : 選択中
      [ ] : 未選択

※通常はそのまま Enter を押して次へ進んでください。
番号を入力して Enter を押すと選択状態が切り替わります。
番号( 0 - 1 ) / Enter: 選択終了 / Q: 中止 :
```





[④で N を選んだ場合]

- A) 表示されているディレクトリがドキュメントルートとして設定されている場合は、そのまま Enter を押して C) の WWW ユーザー名の入力画面へ進んでください。違う場合は、N を入力し Enter を押して次のディレクトリを入力画面へ進んでください。

Q: インストールを中止します。

```

//////////////////////////////// インストール先(ドキュメントルート)の確認 //////////////////////////////////
ドキュメントルートには、製品で使用するファイルがコピーされます。
/usr/local/ni/apache/htdocs
このディレクトリはドキュメントルートとして設定されていますか?
[Y]: はい / N: いいえ(別ディレクトリを設定) / Q: インストールの中止 : _
```

- B) Apache に設定されている実在するドキュメントルートを入力して Enter を押してください。  
注意: パスの最後に/ (スラッシュ) を付けずにください。

Q: インストールを中止します。

```

//////////////////////////////// ドキュメントルートディレクトリを入力 //////////////////////////////////
ドキュメントルートのディレクトリを入力して Enter を押して下さい。
(Q: インストールの中止 )
ドキュメントルートディレクトリ : _
```

- C) Apache の起動ユーザー名を入力して Enter を押してください。[]内のユーザー名で良ければそのまま Enter を押してください。Q: インストールを中止します。

```

//////////////////////////////// WWWユーザー名の入力 //////////////////////////////////
インストール済みの Apache のユーザー名を入力して Enter を押して下さい。
例: nobody, apache
(Q: インストールの中止 )
WWWユーザー名[ nobody ] : _
```

- D) PostgreSQL の管理者ユーザー名を入力して Enter を押してください。[]内のユーザー名で良ければそのまま Enter を押してください。Q: インストールを中止します。

```

//////////////////////////////// PostgreSQL管理者名の入力 //////////////////////////////////
インストール済みの PostgreSQL の管理者名を入力して Enter を押して下さい。
例: postgres
(Q: インストールの中止 )
PostgreSQL管理者名[ postgres ] : _
```

インストールする製品名、インストール先、DB 最適化処理(※1)のスケジューリング情報が表示されます。インストールを開始する場合はそのまま Enter を押してください。

N : ②のアプリケーションの選択に戻ります。Q : インストールを中止します。

※1 PostgreSQL の最適化のため vacuumdb コマンドを毎日午前 2 時頃に実行する設定を行いません。

```

// // // // // // // // // // インストール情報の確認 // // // // // // // // // //
以下のアプリケーションをインストールします。

● 共通システム管理
● 顧客創造日報 for WEB
● 顧客創造日報 for WEB 顧客の声
● NI コラボ
● 見積共有管理 for WEB

以下のディレクトリにプログラムファイルをコピーします。
コピー先ディレクトリ : /usr/local/ni/apache/htdocs

DB最適化処理のため以下の内容を niconsul の crontab に登録します。

5 4 * * * /var/tmp/ni/nipgsq1-vacuumdb.cron nidb5

これらのインストールを開始します。よろしいですか？
[Y]: 実行 / N: アプリケーション選択に戻る / Q: インストールの中止 :
```

⑤ 顧客創造日報シリーズ及び Sales Force Assistant 製品をご利用の WEB サーバーのインストールの場合のみ、リモートコンサルティングセンサー機能のインストール確認が表示されます。

```

データベースの最適化処理を登録中です。 . . . [ OK ]
リモートコンサルティングセンサー機能がご利用いただけます。
リモートコンサルティングセンサーをインストールしてよろしいですか？ ([Y]/N) : █
```

※リモートコンサルティングセンサー機能を有効にするには、インストールが完了した後、製品のシステム設定画面より、有効設定や開始日等を保存していただく必要があります。リモートコンサルティングセンサー機能をインストールしただけでは、機能は有効になりません。

※「N」を入力した場合、製品のシステム設定画面よりリモートコンサルティングセンサーのみのインストーラーをダウンロードしてインストールする事ができます。

⑥ リモートコンサルティングセンサーのインストール画面が表示されます。  
Enter を押して、インストールを開始してください。

```

// // // // // // // // // // インストール実施前の確認 // // // // // // // // // //

リモートコンサルティングセンサー機能のインストールを実施します。
まず初めに機能を利用するために必要な情報の確認を実施します。

[Enter]: 開始 / Q: 中止 :
```

- ⑦ リモートコンサルティングセンサーのインストールが実行されます。  
リモートコンサルティングセンサーのインストールが完了した場合、  
製品のインストール完了画面、⑧が表示されます。

```
弊社製品の動作環境を確認中...
弊社製品の動作環境の確認が完了しました。
弊社製品のバージョンを確認中...
弊社製品のバージョンを確認しました。
リモートコンサルティングセンサーの設定ファイルを確認中...
リモートコンサルティングセンサーの設定ファイルを配置中...
リモートコンサルティングセンサーの設定ファイルの配置が完了しました。
リモートコンサルティングセンサーを配置するディレクトリを確認中...
リモートコンサルティングセンサーを配置するディレクトリを確認しました。
リモートコンサルティングセンサーを配置するディレクトリ2を確認しました。
リモートコンサルティングセンサーの機能を配置中...
リモートコンサルティングセンサーの実行ファイルを削除中...
リモートコンサルティングセンサーの実行ファイルを配置しています...
リモートコンサルティングセンサーの実行ファイルの配置が完了しました。
定期実行の登録を実行中...
定期実行の登録が完了しました。

-----
リモートコンサルティングセンサーのインストールが完了しました。
-----
```

- ⑧ 以下のように表示されると NI 製品のインストールは完了です。ブラウザでログイン画面を開いて確認してください。確認方法は P. 23 を参照してください。  
そのまま Enter を押して、セットアップメニューに戻ってください。

```
+-----+
| NI 製品のインストールが完了しました。 |
|                                         |
| - 共通システム管理                   |
| - 顧客創造日報 for WEB               |
| - 顧客創造日報 for WEB 顧客の声     |
| - NI コラボ R 5                      |
| - 見積共有管理 for WEB               |
|                                         |
| ブラウザを開いて製品のログイン画面を開いてください。 |
+-----+
| セットアップメニューに戻ります。 |
| --- Enter を押して下さい --- |
```

※インストールメッセージ及び画面の製品名は購入された製品により異なります。

## 8. NI 製品のバックアップ設定方法

### 8-1. バックアップの内容

このプログラムは、弊社製品に関連するデータのみを毎日午前 4 時頃バックアップ(※1)いたします。バックアップ対象は、ドキュメントルート以下にインストールされる製品データ(※2)と PostgreSQL に保存される製品データ(※3)となります。

※1 /var/tmp/ni-backup 以下に、最大 3 世代分を保持し、一番古い世代のものから削除されます。

※2 ni-dir-世代番号(1~3).tar.gz という名称で、バックアップデータは生成されます。

※3 nldb5-db-世代番号(1~3).tar.gz という名称で、バックアップデータは生成されます。

### 8-2. バックアップ設定時の注意事項

バックアップデータを同一ハードディスク内に保存する場合、その分容量が必要となります。ハードディスクの残容量が少ない場合、正常にバックアップが実行できなくなりますので、注意してください。また、バックアップデータを DAT に書き込む場合、「mt-st」というオープンソフトウェアが必要となります。インストールされていることを確認するためには=>P.2を参照してください。

### 8-3. セットアッププログラムの実行

① 以下のセットアップメニューで、3を入力してEnterを押してください。

```
////////////////////////////////// セットアップメニュー ////////////////////////////////////
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )
2. NI 製品 インストール ( NIコラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )
3. NI 製品 バックアップ設定
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )

0. インストールファイルの削除

セットアップを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。
番号 ( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 : _
```

② 表示されるディレクトリにNI製品がインストールされている場合は、そのままEnterを押してください。NI Application Server をインストールして環境構築した場合は、そのままEnterを押して次へ進んでください。

インストールディレクトリが違う場合は、Nを入力しEnterを押して次項へ進んでください。

Q: インストールを中止します。

```
////////////////////////////////// NI製品 インストールディレクトリの確認 ////////////////////////////////////
/usr/local/ni/apache/htdocs

このディレクトリにNI製品がインストールされていますか？
[Y]: はい / N: いいえ(別ディレクトリを設定) / Q: インストールの中止 :
```

Nを選んだ場合は、製品がインストールされているドキュメントルートを入力してEnterを押してください。**注意**: パスの最後に/ (スラッシュ) を付けないでください。

```

////////// NI製品 インストールディレクトリの入力 //////////
NI製品をインストールしたディレクトリを入力して Enter を押して下さい。
(Q: インストールの中止)

インストールディレクトリ[ /usr/local/apache/htdocs ] :

```

- ③ PostgreSQL の管理者名を入力して Enter を押してください。NI Application Server をインストールして環境構築した場合は、そのまま Enter を押して次へ進んでください。

```

////////// PostgreSQL管理者名の入力 //////////
インストール済みの PostgreSQL管理者名を入力して Enter を押して下さい。
(Q: インストールの中止)

PostgreSQL管理者名[ niconsul ] :

```

通常バックアップデータは、同一 HDD 内の/var/tmp/ni-backup 以下に保存されます。これを認識済みの DAT に保存させる場合は、Yを入力して Enter を押してください。Nを入力して Enter を押すと通常通り/var/tmp/ni-backup 以下に保存されます。

```

////////// DAT への保存確認 //////////
通常バックアップは、同一 HD 内の /var/tmp/ni-backup 以下に保存されます。
このバックアップデータを DAT へ書き込むこともできます。
(予め DAT が認識されている必要があります。)

このバックアップデータを DAT へ保存しますか？
[Y]: はい / N: いいえ(同一 HD 内のみに保存) / Q: インストールの中止 :

```

- ④ 以下のように表示されるとバックアップの設定は完了です。そのまま Enter を押して、セットアップメニューに戻ってください。

```

NI製品のバックアップ処理を登録中です。 . . . [ OK ]
セットアップメニューに戻ります。

--- Enter を押して下さい ---

```

#### 8-4. バックアップの即時実行

本章のバックアップ設定の内容を DAT への書き込みテストなどのためにすぐに行いたい場合、直接実行することでバックアップを行なうことができます。

- ① サーバー管理者(root)でログインします。
- ② 以下のコマンドをお客様の環境に合わせて実行します。

```
# /usr/local/ni/nicon/nicon-backup.cron /var/tmp niconsul /usr/local/ni/apache/htdocs 1 [Enter]
```

##### ■バックアッププログラムの引数について

第1引数	バックアップディレクトリ ※通常は/var/tmpに設定してください。
第2引数	PostgreSQL 管理者ユーザー名
第3引数	ドキュメントルート
第4引数	DAT への書き込み 0 : 書き込まない 1 : 書き込む

## 9. NI SSH Server のインストール方法

### 9-1. NI SSH Server について

NI SSH Server は Linux サーバーとのリモート接続の通信内容を暗号化する OpenSSH をカスタマイズし、独自のディレクトリ /usr/local/ni/openssh にインストールする為のオプションプログラムです。とくにリモート接続の必要が無ければインストールの必要はありません。

### 9-2. ご利用時の注意事項

- ① NI SSH Server をインストールする為には、NI Application Server を先にインストールする必要があります。NI SSH Server のみのインストールはできません。
- ② ファイアウォール等の設定で通信可能なポートを制限されている場合、NI SSH Server で使用している「2202」ポートを空けていただく必要があります。
- ③ NI SSH Server は、niconsul ユーザーでのみ接続が可能になっており、他のユーザーでの接続はできません。

### 9-3. インストールプログラムの実行

- ① 以下のセットアップメニューで、4を入力して Enter を押してください。

```
////////////////////////////////// セットアップメニュー ////////////////////////////////////
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )
2. NI 製品 インストール ( NIコラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )
3. NI 製品 バックアップ設定
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )

0. インストールファイルの削除

セットアップを開始する番号を入力して[Enter]を押してください。
番号 ( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 : _
```

- ② インストールを開始する場合は、そのまま Enter を押してください。  
※インストールには約5から15分かかります。(マシンスペックにより変動します)  
M: メニューに戻ります。Q: インストールを中止します。

```
////////////////////////////////// インストール確認 ////////////////////////////////////
NI SSH Server のインストールを開始します。(約5 - 15分)

以下のモジュールが /usr/local/ni にインストールされます。

・ NI SSH Server ( OpenSSH + zlib )

インストールを開始する場合は[Enter]を押してください。
Enter: 実行 / M: メニューに戻る / Q: インストールの中止 :
```

- ③ 以下のように表示されると NI SSH Server のインストールは完了です。そのまま Enter を押し  
てセットアップメニューに戻ってください。

```
NI SSH Server をセットアップ中です. . .
> ni-openssh : ##### [ OK ]
+-----+
| セットアップが完了しました。 |
| The starting method : /etc/rc.d/init.d/nisshd start |
+-----+
セットアップメニューに戻ります。
--- Enter を押して下さい ---
```

#### 9-4. NI SSH Server の起動方法

以下の方法で NI SSH Server を起動することができます。

※NI SSH Server インストール後、サーバー起動時に自動的に起動します。

```
[root@REDHAT73 root]# /etc/rc.d/init.d/nisshd start
Starting ni-ssh service: [ OK ]
[root@REDHAT73 root]#
```

## 10. インストールファイルの削除

### 10-1. アンインストールプログラムの実行

注意：このアンインストールプログラムによって削除できるのは、同じ nisetup.sh によってセットアップされたプログラムや設定となります。

① 以下のセットアップメニューで、0 を入力して Enter を押してください。

```
//////////////////// セットアップメニュー //////////////////////////////////////
1. NI Application Server インストール ( Apache、PHP、PostgreSQL ...他 )
2. NI 製品 インストール ( NI コラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他 )
3. NI 製品 バックアップ設定
4. NI SSH Server インストール ( OpenSSH + zlib )

0. インストールファイルの削除

セットアップを開始する番号を入力して [Enter] を押してください。
番号 ( 0 - 4 ) / Enter: 選択終了 / Q: セットアップの終了 :_
```

② アンインストールを開始する番号を入力して Enter を押してください。

M: メニューに戻ります。

```
//////////////////// アンインストールメニュー //////////////////////////////////////
注意！！ このアンインストールプログラムは、同じ nisetup.sh を実行して
インストールしたものが対象になります。

1. NI Application Server アンインストール
2. NI 製品 アンインストール
3. NI 製品 バックアップ設定の削除
4. NI SSH Server アンインストール

アンインストールを開始する番号を入力して [Enter] を押してください。
番号 ( 1 - 4 ) / Enter: 選択終了 / M: メニューに戻る :
```

それぞれのアンインストール方法は下記のページを参照してください。

- 1 ... NI Application Server をアンインストールする場合 => 10-2 へ
- 2 ... NI 製品をアンインストールする場合 => 10-3 へ
- 3 ... NI 製品のバックアップ設定を削除する場合 => 10-4 へ
- 4 ... NI SSH Server をアンインストールする場合 => 10-5 へ



## 10-2. NI Application Server のアンインストール方法

- ① NI Application Server のアンインストールを開始する場合は、そのまま Enter を押ししてください。

**注意：**NI Application Server をアンインストールする為には、予め NI 製品及び NI SSH Server をアンインストールしていただく必要があります。

```
NI Application Server のアンインストールを開始します。
```

```
注意！！ Apache や PostgreSQL などのモジュールは完全に削除されます。
```

```
よろしいですか？ (Y/N) : _
```

- ② 以下のように表示されると NI Application Server のアンインストールは完了です。そのまま Enter を押してメニューに戻ってください。

```
NI Application Server を削除中です。 . . . [ OK ]
NI Application Server のアンインストールが完了しました。メニューに戻ります。
--- Enter を押して下さい ---
```

## 10-3. NI 製品のアンインストール方法

- ① NI 製品のアンインストールを開始する場合は、そのまま Enter を押しください。NI 製品をアンインストールする為には、NI Application Server(PostgreSQL)を稼動させておく必要があります。

```
NI 製品 のアンインストールを開始します。
```

```
注意！！ NI コラボ、顧客創造日報、顧客深耕日報 ...他
は完全に削除されます。
```

```
よろしいですか？ (Y/N) :
```

- ② NI 製品をインストールしたドキュメントルートを入力して Enter を押しください。NI Application Server で環境構築された場合は、そのまま Enter を押しください。  
Q: アンインストールを中止します。

```
////////// ドキュメントルートディレクトリの入力 //////////
```

```
NI製品をインストールしたディレクトリを入力して Enter を押しして下さい。
(Q: アンインストールの中止)
```

```
インストールディレクトリ [ /usr/local/ni/apache/htdocs ] :
```

- ③ PostgreSQL の管理者名を入力して、Enter を押しください。NI Application Server で環境構築された場合は、そのまま Enter を押しください。  
Q: アンインストールを中止します。

```
////////// PostgreSQL管理者名の入力 //////////
```

```
インストール済みの PostgreSQL 管理者名を入力して Enter を押しして下さい。
(Q: アンインストールの中止)
```

```
PostgreSQL管理者名 [ niconsul ] : _
```

- ④ 以下のように表示されると NI 製品のアンインストールは完了です。そのまま Enter を押してメニューに戻ってください。

```
現在のデータベースをバックアップ中です。 . . . [ OK ]
/tmp/nidb5-db-20050310.tar.gz にバックアップされました
現在のファイルディレクトリをバックアップ中です。 . . . [ OK ]
/tmp/ni-dir-20050310.tar.gz にバックアップされました
データベースを削除中です。 . . . [ OK ]
ファイルディレクトリを削除中です。 . . . [ OK ]
データベースの最適化処理を削除中です。 . . . [ OK ]
NI 製品のアンインストールが完了しました。メニューに戻ります。
--- Enter を押して下さい ---
```

#### 10-4. NI 製品のバックアップ設定を削除する方法

- ① バックアップ設定を削除する場合は、そのまま Enter を押してください。

```
NI 製品 バックアップ設定の削除を開始します。
よろしいですか？ (Y/N) :
```

- ② 以下のように表示されると NI 製品のバックアップ設定の削除は完了です。そのまま Enter を押してメニューに戻ってください。

```
NI 製品 バックアップ設定の削除が完了しました。メニューに戻ります。
--- Enter を押して下さい ---
```

#### 10-5. NI SSH Server のアンインストール方法

- ① NI SSH Server をアンインストールする場合は、そのまま Enter を押してください。

注意：このプログラムを NI SSH 経由で実行している場合、アンインストール時に切断されてしまいます。直接 Linux を操作いただくか、別のリモート接続の手段で実行してください。

```
NI SSH Server のアンインストールを開始します。
注意！！ このプログラムを NI SSH 経由でリモート実行している場合、
アンインストール時に切断されてしまいます。
NI SSH Server のアンインストールを実行する場合は、直接
Linux を操作いただくか、別のリモート接続の手段で実行して
アンインストールを行ってください。
よろしいですか？ (Y/N) :
```

- ② 以下のように表示されると NI SSH Server のアンインストールは完了です。そのまま Enter を押してメニューに戻ってください。

```
NI SSH Server を削除中です。 . . . [ OK ]
NI SSH Server のアンインストールが完了しました。メニューに戻ります。
--- Enter を押して下さい ---
```

## 11. NI 製品の各ログイン方法

### SSL 通信の利用について



- ・ SSL を使うとお使いのブラウザ (Internet Explorer や SSL 対応の携帯など) とサーバー間でやり取りされるデータ (メールやその他の内容、ログイン ID・パスワードなど) が暗号化されます。これによって悪意ある第三者に情報を覗かれるのを防ぐことができます。弊社では SSL 通信でのご利用を推奨しております。
- ・ NI Application Server 付属の SSL は、第三者認証機関が認証した証明書を使用していません。  
⇒ au 携帯では、KDDI 株式会社様の仕様上、特定の第三者認証機関が認証した証明書以外の利用は出来ません。
- ・ NI Application Server 付属の SSL を利用される場合、アクセス先が弊社サイトであることを証明するフィンガープリント (指印) を必ず確認しご利用ください。この確認は弊社が提供するサイトである証明を確認することで不正サイトへのアクセスを防止するものです。クライアントパソコンへの設定方法については別紙「SSL 証明書インストール (クライアント編)」を参照してください。  
⇒ フィンガープリントは NI Application Server インストール時に表示されます。  
⇒ 第三者認証機関が認証した証明書を利用していただく場合は、認証機関の設定方法をご参照ください。

クライアント PC のインターネットエクスプローラーを起動し、以下の各 URL を入力してください。  
初期ログイン用として、ログイン ID : admin、パスワード : admin が登録されております。それぞれ入力して Enter を押してください。

**注意：**運用後は必ず、このログイン ID・パスワードを御社独自の内容に変更してください。

### 11-1. NI コラボ

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/nicollabo/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/nicollabo/)

### 11-2. 顧客創造日報 および 顧客創造日報 Type-R

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/nisfa/main/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/nisfa/main/)

### 11-3. 顧客深耕日報、顧客深耕日報 案件創造統合、顧客深耕日報 Type-R、顧客深耕日報 A0

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/nicrm/main/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/nicrm/main/)

### 11-4. 可視化日報

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/nivms/main/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/nivms/main/)

### 11-5. 顧客創造アプローチ

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/nidam/main/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/nidam/main/)

### 11-6. 見積共有管理

ログイン画面 URL [https://IP アドレス、またはサーバー名/ni/niest/main/](https://IPアドレス、またはサーバー名/ni/niest/main/)

※経営 CompassScope、可視化 MapScorer など日報製品との連携可能な製品については、各日報製品からログインを行ってください。

初回ログイン後はシステム管理者パスワードや社員情報などの各種マスタ設定が必要です。

製品へのアクセスの確認ができましたら引き続き、システム設定マニュアルをご参照の上、事前設定を行って下さい。

## 12. NI 製品のリストア（復旧）方法

ここではハード障害などの理由により、サーバーの入れ替えやNI製品の再インストールを行なう場合に、バックアップデータをリストアする方法を説明いたします。尚、リストアに使用するバックアップデータは、本マニュアルの8章のバックアッププログラムによって保存されたものを対象としています。

### 12-1. NI 製品の新規インストール

本マニュアルの7章を参考にして、新規にNI製品のインストールを行なってください。

### 12-2. ディレクトリデータのリストア

バックアップデータのうち「ni-dir-1.tar.gz」(※1)を/tmp以下に置いて、rootで以下の作業を行なってください。※1 番号部分の一番若いものが最新のバックアップデータとなります。

**注意：**NI Application Server 以外で実行環境を構築された場合は、以下のniconsul部分を使用されているApacheの実行ユーザー名に変更してください。例：nobodyなど

- ① 製品をインストールしたドキュメントルートに移動します。  
# cd /usr/local/ni/apache/htdocs [Enter]
- ② 既存ディレクトリをリネームして、バックアップファイルを展開します。  
# mv ni ni-old [Enter]  
# tar xzf /tmp/ni-dir-1.tar.gz [Enter]
- ③ 展開ディレクトリの権限を変更します。  
# chown -R niconsul.root ni [Enter]

### 12-3. データベースデータのリストア

バックアップデータのうち「nidb5-db-1.tar.gz」(※1)を/tmp以下に置いて、rootで以下の作業を行なってください。※1 番号部分の一番若いものが最新のバックアップデータとなります。

**注意：**NI Application Server 以外で実行環境を構築された場合は、以下のniconsul部分を使用されているPostgreSQLの管理者ユーザー名に変更してください。例：postgresなど

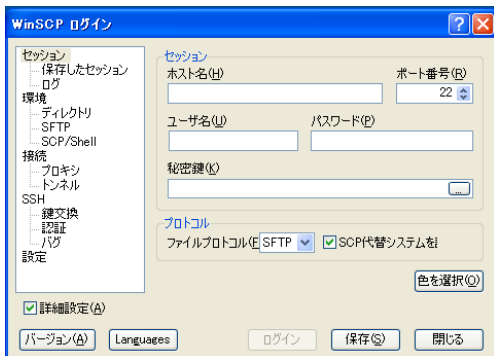
- ① 新規インストールした既存データベースを削除します。  
# su -l niconsul -c 'dropdb nidb5' [Enter]
- ② 新規に空のデータベースを作成します。  
# su -l niconsul -c 'createdb -E EUC\_JP nidb5' [Enter]
- ③ ②で作成したデータベースにバックアップデータを戻します。  
# gunzip -c /tmp/nidb5-db-1.tar.gz | su -l niconsul -c 'psql nidb5' [Enter]

以上でリストア作業は完了です。

### 13. バックアップデータの外部への退避方法

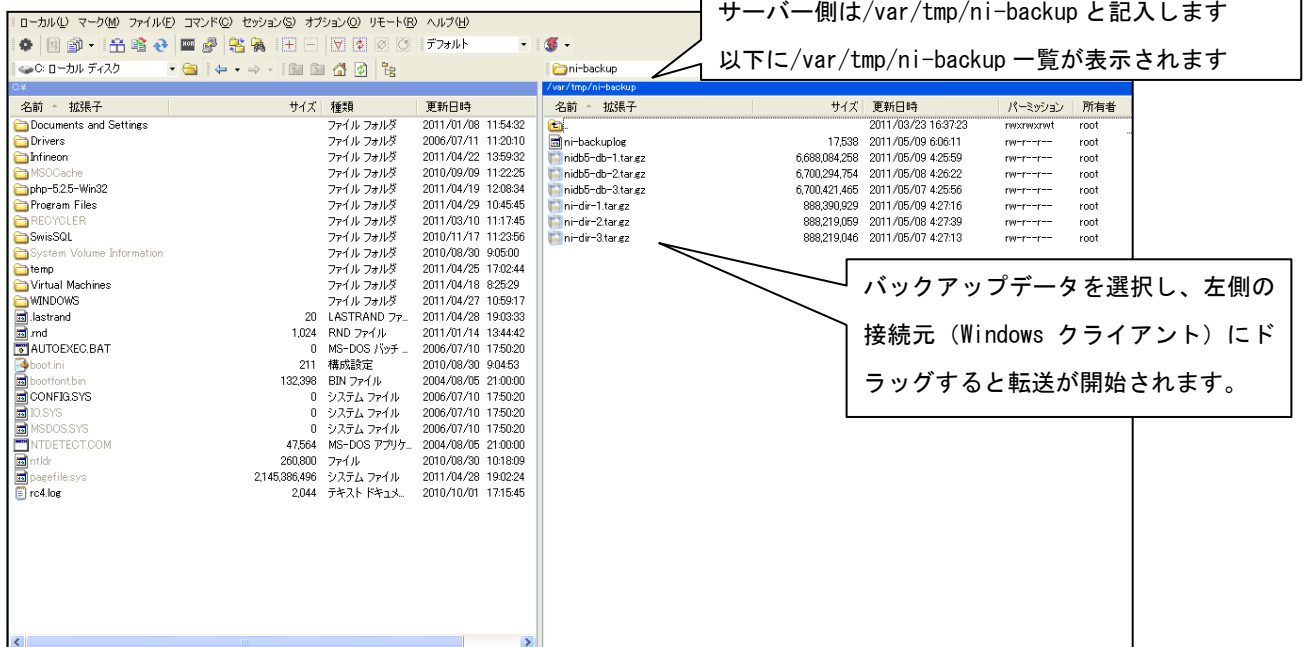
DAT などの外部記憶装置が無い場合、バックアップデータを Linux サーバー以外の場所へ退避させることで、障害時のデータ復旧に備えることができます。ここでは 9 節でインストールをした NI SSH Server を使ったクライアント PC にバックアップデータを保存する方法を説明いたします。

- ① 以下のサイトから WinSCP を Windows クライアントにダウンロードします。  
**【窓の杜】** <http://www.forest.impress.co.jp/lib/inet/servernt/ftp/winscp.html>
- ② ダウンロードしたファイルをダブルクリックしインストールします。
- ③ インストール後、WinSCP を起動させます。
- ④ 以下の画面が表示されますので、製品をインストールしたサーバーの情報を入力します。



ホスト名	サーバーの IP アドレスを入力します。
ポート番号	2202
ユーザー名	niconsul
パスワード	上記ユーザーのパスワードを記入します。

- ⑤ ④の入力が完了したら、「ログイン」ボタンをクリックします。
- ⑥ /var/tmp/ni-backup 以下にあるバックアップデータを接続元 (Windows クライアント) にダウンロードします。



- ⑦ 接続元 (Windows クライアント) にダウンロードしたデータを CD-R 等の外部メディアに保存します。※外部メディアへの保存方法については、各メディアの使用方法をご参照ください。

## 14. サーバーの電源管理について

停電時など電源の供給が止まる場合、サーバーの電源を落とす必要があります。  
必ず以下の手順にてサーバーの電源を落としてください。

**注意：**サーバーの電源を直接落とされると、弊社製品を正しく利用できなくなる恐れがあります。

- ① サーバー管理者(root)でログインします。  
※ログイン方法は、4-1節を参考にしてください。
- ② 以下のコマンドで終了させます。  
`# shutdown -h now [Enter]`
- ③ 以下のようにメッセージが表示され、自動的にサーバー機の電源が落ちます。自動で落ちない場合においては、メッセージの表示が止まって、暫く変化がなければ安全に電源を落とすことが出来ます。

```
[root@REDHAT72 root]# shutdown -h now
Broadcast message from root (tty1) Sun Jun 15 12:09:26 2003...

The system is going down for system halt NOW !!
INIT: Switching to runlevel: 0
INIT: Sending processes the TERM signal
Stopping atd: [ OK ]
Stopping cannaserver: [ OK ]
Shutting down console mouse services: [ OK ]
Stopping sshd: [ OK ]
Shutting down sendmail: [ OK ]
Stopping xinetd: [ OK ]
Stopping crond: [ OK ]
Shutting down APM daemon: [ OK ]
Saving random seed: [ OK ]
Shutting down NFS file locking services:
Shutting down NFS statd: [ OK ]
Stopping portmapper: [ OK ]
Shutting down kernel logger: [ OK ]
Shutting down system logger: [ OK ]
Shutting down interface eth0: [ OK ]
```

## 15. サーバパラメータ調整方法

8GB以上のメモリを搭載しているサーバにNI製品をセットアップする際は、以下の手順で、サーバパラメータを調整することにより、サーバ性能を有効活用し、良好なレスポンスが得られるように設定することが可能です。

**注意:** 本設定はサーバの8GB以上の物理メモリが搭載されている場合に限り、設定が可能です。

### 15-1. 事前準備

- ① サーバ管理者(root)でログインします。  
※ログイン方法は、4-1節を参考にしてください。

### 15-2. PostgreSQL 起動パラメータの設定変更

- ① **vi /etc/init.d/niserver** と入力して **Enter** を押してください。  
vi エディタにて、NI Application Server の起動用ファイルが開きます。  
※グラフィカルデスクトップ環境を実行中で、gedit (簡易に編集可能なテキストエディタ) が利用できる環境の場合は、**gedit /etc/init.d/niserver** と入力することでテキストエディタが開きます。(以下、同様です)
- ② 以下、下図の行位置に太文字で記述されている内容を追加・編集し、保存します。

```
#####  
# Tuning for postgresql.  
#####  
make_pgsql_option(){  
  
    if [ -f $NI_DIR/php5/bin/php ] && [ $PGSQL_TUNING = "on" ]; then  
  
        SYSMEM=`free -b | grep -i ^mem: | $NI_DIR/php5/bin/php -r  
'preg_match("/^mem:[^0-9]+([0-9]+)[^0-9]+.*$/i", trim(fgets(STDIN)), $match) && print $match[1];'  
  
        if [ -n $SYSMEM ]; then  
            CHECKNUM=`expr $SYSMEM % 2`  
            if [ $CHECKNUM -gt 0 ]; then  
                SYSMEM=`expr $SYSMEM - $CHECKNUM`  
            fi  
            BUFMEM=`expr $SYSMEM / 2`  
            MAXMEM=`cat /proc/sys/kernel/shmmax`  
            if [ $MAXMEM -lt $BUFMEM ]; then  
                echo $BUFMEM > /proc/sys/kernel/shmmax  
            fi  
            OPTION_SB=""  
            # >= 6144MB  
            if [ $SYSMEM -ge 6442450944 ]; then  
                # 2048MB => 256000  
                OPTION_SB="200000"  
            # >= 2048MB  
            elif [ $SYSMEM -ge 2147483648 ]; then  
                # 1024MB => 128000  
                OPTION_SB="100000"  
            # >= 1024MB  
            elif [ $SYSMEM -ge 1073741824 ]; then  
                # 512MB => 64000  
                OPTION_SB="60000"  
            # >= 512MB
```

- ③ **vi /usr/local/ni/pgsql/data/postgresql.conf** と入力して **Enter** を押してください。  
vi エディタにて、PostgreSQL の設定ファイルが開きます。

- ④ 下図の行位置に太文字で記述されている内容を追加・編集し、保存します。

```
#NCONSUL#max_connections = 100
#max_connections = 256
max_connections = 512

#work_mem = 1024 # min 64, size in KB
#NCONSUL#maintenance_work_mem = 16384 # min 1024, size in KB
#maintenance_work_mem = 65536 # 64MB
work_mem = 16384
maintenance_work_mem = 655360 # 640MB

#NCONSUL#effective_cache_size = 1000 # typically 8KB each
#effective_cache_size = 16000
effective_cache_size = 200000
```

### 15-3. Apache 起動パラメータの設定変更

- ① **vi /usr/local/ni/apache/conf/httpd.conf** と入力して **Enter** を押してください。  
vi エディタにて、NI Application Server の起動用ファイルが開きます。
- ② 下図の行位置に太文字で記述されている内容を追加し、保存します。

```
<IfModule ssl_module>
SSLRandomSeed startup builtin
SSLRandomSeed connect builtin
</IfModule>

ServerLimit 512
MaxClients 512
```

### 15-4. サーバーの再起動

- ① サーバーを再起動します。  
以下のコマンドで再起動させます。  
**# shutdown -r now [Enter]**



○ 商標

本説明書に登場する会社名、製品名は各社の登録商標、商標です。

○ 免責

本説明書に掲載されている手順による操作の結果、ハード機器に万一障害などが発生しても、弊社では一切の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

○ 発行

2014年10月20日

第28版

株式会社 **NI**コンサルティング

サポートデスク

E-mail : [support@ni-consul.co.jp](mailto:support@ni-consul.co.jp) Fax : 082-511-2226

営業時間 : 月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00 (当社休業日、土・日・祝日を除く)